

風土記の丘の花だより¹²⁴

今、そしてこれから見られる植物(2022年3月5日)

今年は3月5日が啓蟄(けいちつ)です。カエルなど冬ごもりしていた生き物が土の中から出てくる日とされています。いよいよ春ですね。でも今年はどの花も咲くのが遅いようで去年ならもう咲いていた花がまだ咲いてくれません。今回はそんな花を紹介しします。



アセビです。去年の記録では「2月24日、見事なまでの満開」とあります。今年は今月1日現在で最も花付きの良い枝がこれです。淋しい限りです。ご承知のように漢字では「馬酔木」と書き、馬が食べるとフラフラすることから名付けられました。それはこの木に毒成分が含まれているからですが、まさか自然界でウマが食べることもないのに、面白いネーミングですね。



左は同2日に撮影したカンヒザクラです。同じく「2月21日、花数が増える」。そして「3月17日ほぼ散り果て」とあります。この花もやっぱり遅いです。別名を台湾ザクラというくらいで、暖かい所が好きなサクラのようです。年末年始の冷え込みが効いたのででしょうか。藤棚の周辺に植えられています。



これは1日に撮影したサンシュユです。去年は「2月27日7から8分咲き」、「3月6日今まさに見頃」と記録されています。ところが、今年はこんな感じですが、これをご覧になる頃にはもう少し咲いているでしょうが、かなり開花が遅れていることは言うまでもありません。修復古墳の左下のほうに植えられています。



ジンチョウゲは2月24日で「ほぼ五分咲き」とあります。でも今年は3月2日現在、まだまだ開花の兆しがありません。谷山家、柳川家、小早川家いずれも同様です。でも考えようによっては、どの花に対しても「咲くかな、咲くかな」とワクワクする時間が増えたということです。その分きれいに咲いたときの嬉しさは何倍にもなることでしょう。さて皆さんが心待ちにされているサクラはどうなることでしょう。 松下